

2040

免



功績調査部長殿



密第三二號ノ三六

昭和十九年十一月三十日

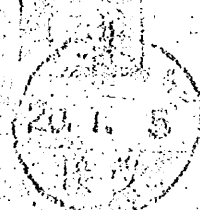
軍艦青葉戦闘詳報 第六號

昭和十九年十月二十日

菲島西方海面対潜水艦戦闘

軍艦 青葉

十二月三日送付



形計經令戰功參
勢劃過達果績考
次
一
二
三
四
五
六
七
形計經令戰功參
勢劃過達果績考
次
一
二
三
四
五
六
七
戰死傷者調查表
天行戰
氣動訓
圖圖所見
別冊
青葉機密第三號ノ三六ノ三

原稿

一 形勢 略

二 計劃

イ 任務企圖

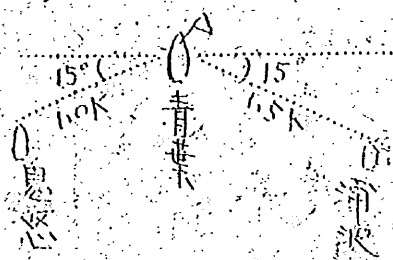
第十六戰隊復艦トレテ作戰ニ從事中ノトコロ九月二十五
 日第一遊撃部隊ニ編入十月十八日リンガ泊地出撃十月二
 十日コバルネイ看同日機空聯合艦隊電令作第三五九号
 ニ依リ第一遊撃部隊ヨリ除カレ第二遊撃部隊ニ編入十月二
 十日コバルネイ出撃在カンヤシ陸軍部隊ノ急進レイテ島
 方面揚塔作戰及レイテ島方面敵兵ガノ撃滅ニ任ズ
 只作戰準備 略
 三 經過

戰闘生起前經過	戦月 戦日 戦時 戦場 戦況 戦果	友軍戦時經過概要
晴 一四八 一四五	リング泊地出撃	同 上
晴 一四八 一四五	フルネイ 着(重油補給)	同 上
快 一四八 一四五	フルネイ 出撃	同 上
快 一四八 一四五	石四五度一五〇米ニ雷跡三本 発見前進二水面艦一 魚雷一本石艦前機ニ命中 傾斜右十度 被雷時ノ状況 位置 一四度一〇分北 二九度一七分東	

(2) 隊形

第八警戒航行序列列法

(本行動中特急セキ)



(3) 基準針路

七五度

(4) 速力

二二三節

(5) 之字運動

一斉回頭持定之字運動合点

十六戦隊ニ於テ特定セルモノシテ△
ノ十分航程ヲ五分航程トシ時刻減ルモノ
被害時斜路一〇〇度

海上模様

晴 米 5.7
NE 6.2 4.3
E 1.1 3.2 6.5
6

氣向速雲形浪向勢
天風風雲波外物動
雨跡發見狀況
並見派員

〇四三〇哨戒長附「雷跡右四十五度」

ト報告哨戒長ハ直ニ「前進一杯」

面舵一杯配置ニ付ウリ令ス

舵未ダ充分利ガサル内ニ魚雷一本

右舷前機ニ命中二本ハ艦ヲ通過ス

〇四四〇
〇四四五

艦内状況

(一) 艦内哨戒第三艦備艦内閉鎖第三法
(二) 敵潜情報ニ依リ敵ハ存在ヲ予知シ
總員起床音響者敵警戒管制ヲ
〇五三〇ニ予定シアリ
(三) 哨戒長通信長
哨戒長附測的士
見張指揮官砲術士
機関科當道將校十二分隊長指揮
同 副道將校後任機械長
左注水部ニ注水始ム(傾斜右十度)
針路右二〇度ニ変針
傾斜右十度(左後機軸ノミヲ以テ)

浦波爆雷脅威
投射

〇 五 四 五	〇 五 四 二	〇 五 三 八	〇 五 三 〇	〇 五 二 九	〇 五 一 二	〇 五 〇 七
主機械停止	水中聴音々源消失	三音員室補強終了	左112水中聴音感2	少々悪汽釀繼續時間不明	使用全ハニ一〇号迄ノミ予備水	傾斜右11度 二四五室塩分上昇汽釀困難 傾斜右11度 三音員室浸水 舷後機11回転ハ九節 舷機使用不能

六三

消火中

浦波脅威技
射ヲナス

原稿

〇六三五	二号正点火
〇六四八	傾斜右15度
〇六五〇	水偵一機右10度高1度 左進ム
〇六五二	五缶室火内火災全弁ヲフカス
〇七〇九	浸水止ム
〇七一三	〇度方向ニミテ発見(鬼怒ヨリ)
〇七一七	艇高角砲打方始ム
〇七三〇	打方止ム
〇七三六	鬼怒曳航準備完了
〇七五〇	五缶室蒸氣ノ爲入室不可能
	傾斜右十二度
	前後ノツリム 12m
	上方水偵一機 上空ヲ哨戒
	上甲板ヨリ注水消火続行中

一五〇〇	一三四七	一四四五	一〇一〇	一〇〇〇	〇九五四	〇九四九	〇〇九一	〇〇八四	〇〇八三	〇〇八一	〇〇七五
五正室火災鎮火	前後ツリ火	針路五五度ニ変針	上空ニ機哨戒	人力操舵	發電機使用不能	實速七五節	機械工場火災傾斜間モナク鎮火	二正室ニ注水始メ傾斜復元ノ度	曳航始メ	曳航索ヲトル	

四
令達報
4-12
又
通報

二	二	一	一
二	〇	八	七
〇	二	一	五
〇	七	九	〇

針路六〇度ニ變針速力六節
傾斜右十二度
マニラ灣ニ入ル
鬼心怒スツヅク付ス
將複々鬼心ニ移揚ス

二十三日 八二〇 P 五月	(才)	信令帶 号	信
二十三日 〇四四 P 165	次長 〇四四 正 〇四四 副 〇四四	今夜令ナシヲ左ノ通り行動セヨ 〇一三五 針路 七五度 〇一四五 之字運動 再興 〇二〇〇 運力ニ即	号
二十三日 〇五四 P 165	正 〇五四 副 〇五四	青葉敵潜水艦ノ雷撃ヲ受ク 魚雷一本命中 14 度ノ分ニ 17 度ノ分	無線
二十三日 〇五四 P 165	正 〇五四 副 〇五四	青葉浸水ノ為メ機械使用不能	右同
二十三日 〇五四 P 165	正 〇五四 副 〇五四	天明後思ハレテ曳航マシニ向マテ是 警式飛行機及艦艇急派方配慮ヲ得度	右同
二十三日 〇九四 P 165	正 〇九四 副 〇九四	一思ヒテ五月廿五ヲ曳航開始速ク約七五節ノ九三〇 位置通「カガラ」島ノニハ七度ニ〇分ルペン島ノ北側ヲ同	11

二十三日一五〇〇	八月	二十三日一八二五	二十三日一八二五	二十三日一八二五	二十三日一八二五
信令常 號	浦波及第四六駆潜艇、夫々青葉ノ左側及右側ニ占位機宜、蛇行運動ヲ實施シツツ敵警戒セヨ	基進十針路、60度進カ、兩六節	曳航用スリッポート、無煙アルヲ以テ、速カヲナス	旗艦ヲ忠怒ニ變更セリ	浸水逐次増殖ス、ポンプ船ナキ場合、此所ニ沈坐ノ外ナシ
附近艦艇ヲ至急護衛艦ノ派遣ヲ乞フ	右同	無線	右同	右同	右同

三山 六三〇	三山 一七四九	廣愛州九一三五	横付排水開始
青葉 竹參謀長	今夜キヤビテ	ニ向テ曳航開始ノ事決定	
			線 無

五 戦果及被害

(一) 戦果 ナシ
(二) 被害

一 船体関係被害状況概要

- (一) 右舷肋骨一八番(七五室後方)ヨリニ〇三番(前部右舷機械室中央)ニ至ル舷側防禦鋼板變形(接手、鉋、脱落及機械室側壁破壊以上何レモ最大約二米五〇〇内方ニ圧入ス)
- (二) 前部兩舷機械室間隔壁肋骨一八七番附近(機械

室前部長サニ米高五米ニ亘リ左舷機械室側ニ最大
約二米圧入破孔

前部右舷機械室間隔壁ハ後部機械室側ニ最大約
七五浬変曲ス同右隔壁ト側壁ト接合部ハ上部
下部ニ亘リ全長ニ亘リ後部機械室側壁
ハ前部及後部ニ於テ機械室側ニ夫ニ最大約六五浬
及一〇〇浬変曲ス

七五室後部隔壁ハ上部ニ於テ接合部ハ一部切断
室側ニ最大一五〇浬変曲ス又側壁ハ内側ニ最大一〇〇
〇浬変曲ス二重座板ハ右舷側ニ於テ上部ニ相当ノ
隆起ヲ生ズ

後部隔壁ト側壁ト接合部変曲亀裂ヲ生ズ
前部右舷機械室上部甲板ハ上部ニ押上げレ甲板

支柱通風管同其ニ変曲変形ヲ生シ外側鉄ハ全長ニ

巨リ弛緩ス

二機械室被害状況詳細

一前部右舷機械室

殆ンド全部破壊ス

一高低圧「タービン」巡航「タービン」同上減速装置

破壊

主復水器 主抽氣「ポンプ」主送水「ポンプ」

使用不能

強圧注油「ポンプ」(ニ台)油冷却「ポンプ」油冷却器

使用不能

ニ蒸化器ナ蒸溜器同上付着物アリ 原形ヲ留ム

消防兼「ビル」ポンプ 重油移動「ポンプ」

使用、能否不明

三主機械回転装置(原動機ハ原形ヲ留ム)

破壊

排氣通風機(電動機ハ原形ヲ留ム)

使用不能

四主抽力抽受ハ原形ヲ留ムモ主推力抽力機械室後

新隔壁貫通部に於て内側数枚偏倚ス、

五、主蒸気管系

七、九号主隔壁弁弁棒及後機ニ至ル遮断弁弁棒

取付部ニ屈曲

高圧コイルビン及巡航コイルビンニ至ル主蒸気管破壊

使用不能後機ニ至ル遮断弁後方ニ於テ主蒸気管

上方ニ屈曲

六、補助蒸気管系

後機ニ至ル補助蒸気管機械室中央部ニ於テ上方

ニ屈曲

七、補助排出蒸気管系

破壊使用不能

(2) 前部左舷機械室

爆風ニ依リ主復水器低圧パイプ側ニ圧着、爲低圧パイプ固足脚部ニ電烈ニ生ジ低圧パイプ使用不能
主送水ポンプ手動不能

後機ニ至ル補助排出蒸氣管ハ主復水器前部ニ於テ
切断使用不能主給水パイプ破損

後部右舷機械室

高圧パイプ後部固足脚部ニ電烈

應急修理上

主復水器下部取付パイプニ本中ニ本折損

使用不能

主送水パイプ取付パイプニ本折損

主給水パイプ雨舷隔壁部漏洩

後部左舷機械室

被火ナシ

(三) 全室被害状況詳細

(一) (一、二号室) (二) (四、六号室) (三) (三、五号室) (四) (八、九号室) 各号室
被害状況ナシ

但し二全室ハ被害直後傾斜復元ノ爲漲水爾後主給
水ノ以テ代用トシテ眞水(容量約四百瓩)搭載中

(五) (七、九号室) 全室

被害発生時ニ至トモ汽釀中ノトモ至急消火爾後浸
水ノ多ク炉底重油ニ引火スルハ至急各号室ハ主給中ノ在
曲使用不能

(六) (十二号室) 全室(小室)

補助排出主管切斷(左舷前機排出管在壊ノ爲)
使用不能

(七) (十一号室) 全室

主給水ポンプ上方に押し上げられ、傾向より毀損せしむ
認め

噴燃用重油ポンプ屈曲一部毀損

給水加熱器

重油加熱器

(四) 其他各科被害状況

航海科

電路被害、急使用不能トナリシモノ

後部給油四連針儀

電氣通信装置

航海科信号諸灯大部

風信儀

(2) 砲術科

主砲關係

- 小九四式方位盤射擊裝置……防震裝置破壞使用不能
 同砲塔旋用双眼望遠鏡……防震裝置破壞
 三番砲塔系兩舷電路……被害。浸水使用不能
 二番探照灯電源電路……同右
 一番一四式二重測距儀……變調。急使用不能
 二番武式六米二重測距儀……同右
 三番砲塔彈庫火藥庫……浸水使用不能
 黑色火藥庫小銃彈藥庫
 (vii) 内外角判定用土座双眼望遠鏡 變調並防震裝置
 破壞

高角砲關係

右舷九四式高射裝置電路……雷害及浸水に依り使用不能
 左舷九四式高角測距儀……上下差を生じ使用不能
 三四番十二糎高角砲……俯仰旋回共變調、爲操作困難
 機銃関係

各部一番機銃……激動に依り俯仰孤螺下俯仰螺軸

離眼鏡銃身上方ニ稍曲折俯仰手輪
 亡失甲板及波除曲折

配電盤右舷系……海水ノ爲絶縁不良

測的関係

二十一号電波探信儀……衝撞、爲破壊並使用不能

十三号電波用發電機……浸水使用不能

同 空中線……衝撞、爲輕微破壊

二十一号電波探信儀旋回発信器……衝撞、爲破壊

水質料

九二式四聯裝發射管一型斜進進尾裝置取付り及

傳導針毀損

第一分室氣圧縮ポンプ室及第二分室氣圧縮機室浸水

電圧計兼電流計及單谷試驗器浸水毀損

水雷火藥庫爆雷庫主倉庫第四倉庫浸水

通信科

浸水ニ依り使用不能トナリタルモノ

九五式短三子イ送信儀改一用直流電動發動機

同 短四子

同 短五子

九二式 四子

九二式 待四子

組組組組組

機

- (vi) 九三式超短波送話機用送信機改用直流電動発動機 二組
- (vii) 九五式送話増幅機改一用 一組
- (viii) ニ号無線電話機送話機一型用 二組
- 亡矢セルモノ
- (5) 飛行科
 - 九六式空三号無線電話機 一組
 - 零式觀測機二機消耗
- (6) 内務科
 - 工作関係
 - 小三三四番注排水タンク使用不能
 - 出後部三十噸ポンプ使用不能
 - 油機械工場使用不能
 - 電機関係

- (i) 二三四号発電機室浸水
 (ii) 右舷電線通路浸水
 (iii) 後部変圧機室浸水
 (iv) 後部通風機浸水
 (v) 後部配電盤室浸水
 (vi) 後部通信電路全部浸水
 (vii) 機械室艦橋間通信電路全部浸水
 (viii) 四号発電機注冷ホース破壊(右舷前機室)
 (ix) 後部配線室浸水
 (x) 後部冷却機室浸水
 (xi) 豫備電源用蓄電池及通信用蓄電池浸水
 (xii) 後部系統動力点灯電路ニ相當ノ被害アリ(他主被害被害ヲ除ク)

〃医務科

医務科倉庫、浸水

(外) 立計科

浸水倉庫

(一) 第一米麥庫

(二) 第二米麥庫

(三) 第三米麥庫

(四) 第二乾物庫

(五) 冷蔵庫、獸肉庫、魚肉庫、野菜庫、氷庫

(六) 野菜格納庫

糧食品被室の率

腐敗、変質等、為使用不能トナルモノ 五十%

(七) 生糧品 六十%

腐肉敗セルモノ

六功績

七参考

- (一) 戦訓所見(別冊)
 (二) 行勤圖
 (三) 天氣圖(別紙)
 (四) 戦死傷者並行方不明者調査表

死傷別配				道官(職)	氏名	死傷年月日
機銃部下官	機銃隊長	井川	潔			
運転員	上機銃	橋本	哲男			
爆雷員	二機銃	徳重	義言			
同	同	山田	龍之祐			
運転員	二機銃	谷端	桂一			

戦死

電測員一書	同	同	同	運転員	電氣部應急員	爆雷員上水	焚火員上機	電氣部應急員	同	同	同	運転員
谷本善太郎	岡山孝雄	近藤新治	浦本忠二	加藤好一	古井敏夫	中森實利	大角義雄	古川資	小島文二	泉田三郎	堂下政信	齊藤信男
一九一〇・一四												

戦死

戦死	戦傷	戦方不明
運車員	爆雷員	飛行員
一機	上機	上機
四上	西井	阿久津
市正	紫雄	遙
一九一〇・三〇	一九一〇・二三	一九一〇・二三

(終)